当たり前の在り方

小牧市立応時中学校　3年

みなさんは「当たり前のこと」と聞いて、何を思い浮かべますか。

私たち三年生は、先日、社会体験学習で横浜・東京方面へ向かい、より学びを深めることができました。無事に成功し、楽しかった社会体験学習の締めくくりである解団式、その中で特に印象に残ったお話があります。それは、泊まらせていただいたホテルの従業員さんや、写真を撮ってくださったカメラマンさんなど、私たちがお世話になった方々からの感謝の言葉でした。その言葉の中には、私たちがしっかりあいさつをしていた、すばやく行動ができていた、というものがありました。この話を聞き、私はうれしくなったのと同時に、なぜか少し違和感を覚えました。自分にとって、当たり前だと思っていたことに感謝をされていたからです。

普段の学校生活の中でも、違和感を覚えることがありました。私は学校の委員会活動として、放送委員会に入っています。主な活動内容は、給食時の放送や、清掃、下校の呼びかけです。その中でも、下校の呼びかけの際、チャイムが鳴らないことがあったり、誰も放送室にいないことを知らずに放送が遅れてしまったりすることがたまにありました。ある日の下校のとき、私は急いでいる生徒から、こんな言葉を聞きました。「放送が鳴らなかったから、帰るのが遅れた。」確かに、放送をかけるタイミングが遅かったのは事実です。しかし、放送がかからなくても、自分たちで時間を見て対応することはできないわけではなかったと思います。委員会の仕事をしている私たちからすれば、放送をすることは当たり前のことです。しかし、毎日のように時間通り放送がされることは、果たして当たり前のことなのでしょうか。

世の中に目を向けて考えてみると、私たちがよく利用する電車やバスが時間通りに来ることはどうでしょうか。海外と比べて、日本の公共交通機関のダイヤは非常に正確であると社会科の授業でも聞いたことがあります。他にも、ご飯を食べる前に「いただきます。」と、感謝の気持ちを込めた挨拶をしない国だってあると言います。

同じようなことが、みなさんの身の周りでもよくあるのではないでしょうか。

日常の裏側にはいつも、当たり前を当たり前にしてくれている人たちがいます。自分を取り巻く環境について、もう一度考えてみてください。今、私たちは誰のおかげで学校に行くことができていますか。誰のおかげで、毎日おいしいご飯を食べることができていますか。それは明日も明後日も、必ず続いていくことではないと思います。当たり前は、実は当たり前ではなかったのです。

これらのことに気づいて、解団式の話を振り返ると、私たちの行動に感謝をしてくれたホテルの従業員さんたちの考え方はとても素敵なことだと思いました。だからこそ、私のことを理解して、つらいときにいつも寄り添ってくれる両親や友達にお礼を伝えようと考えるようになりました。私たちの毎日を支えてくれている人たちに感謝の気持ちを忘れず、「次は私が誰かのために。」と思い合える温かい社会になればいいと思います。そんな、優しさの連鎖する世の中を目指すべきではないでしょうか。これからの社会を担う私たちで、きっといつか、争いのない、平和で住みやすい世界を実現させてみませんか。